

2019年3月期 決算説明資料

2019年5月14日
株式会社加藤製作所



I. 2019年3月期 連結決算概要

1. 会社概要	P.2
2. 主要製品	P.3
3. 連結業績サマリー	P.4
4. 連結業績推移	P.5-P.6
5. 連結損益計算書	P.7
6. 営業利益の増減分析	P.8
7. 連結貸借対照表	P.9
8. 連結キャッシュ・フロー計算書	P.10
9. 連結主要品目別売上高推移	P.11-P.14
10. 連結仕向地別売上高推移	P.15

II. 2020年3月期 連結業績予想

P.16

III. TOPICS

P.17-P.19

- 創 業 : 1895年 (明治28年)
- 設 立 : 1935年 (昭和10年)
- 資 本 金 : 29億3,589万円
- 代 表 者 : 取締役社長 加藤 公康
- 従 業 員 数 : 連結 : 1,258名 単体 : 892名 ※2019年3月31日現在
- 事 業 概 要 : 荷役機械、建設機械、産業機械の製造・販売
- 主 な 子 会 社 : 加藤 (中国) 工程机械有限公司
石川島中駿 (厦門) 建機有限公司
KATO WORKS (THAILAND)CO.,LTD.

建設用クレーン



トラッククレーン
ラフテレーンクレーン
オールテレーンクレーン
積載形トラッククレーン
クローラクレーン

油圧ショベル等



油圧ショベル
ミニショベル
基礎工事用アースドリル
クローラキャリア
フォワーダ・タワーヤーダ

その他



路面清掃車
万能吸引車
スノースイーパー

連結業績サマリー

- 国内売上高は減少、海外売上高は増加
- 採算性を重視した販売により、利益率改善
- 前期に計上した特殊要因の剥落により営業利益が増加

(単位：百万円)

	前期実績 ※ ¹ (2018年3月期)		当期実績 (2019年3月期)	前年同期比 () 内は増減率
売上高	86,974	➡	85,409	△1,564 (△1.8%)
営業利益	2,143	➡	4,462	2,319 (108.2%)
経常利益	2,433	➡	4,794	2,360 (97.0%)
親会社株主 当期純利益	3,033	➡	3,034	0 (0.0%)
1株当たり 配当金 (円)	中間 47.50 期末 32.50 年間 80.00	➡	中間 47.50 期末 47.50 ※ ² 年間 95.00 ※ ²	

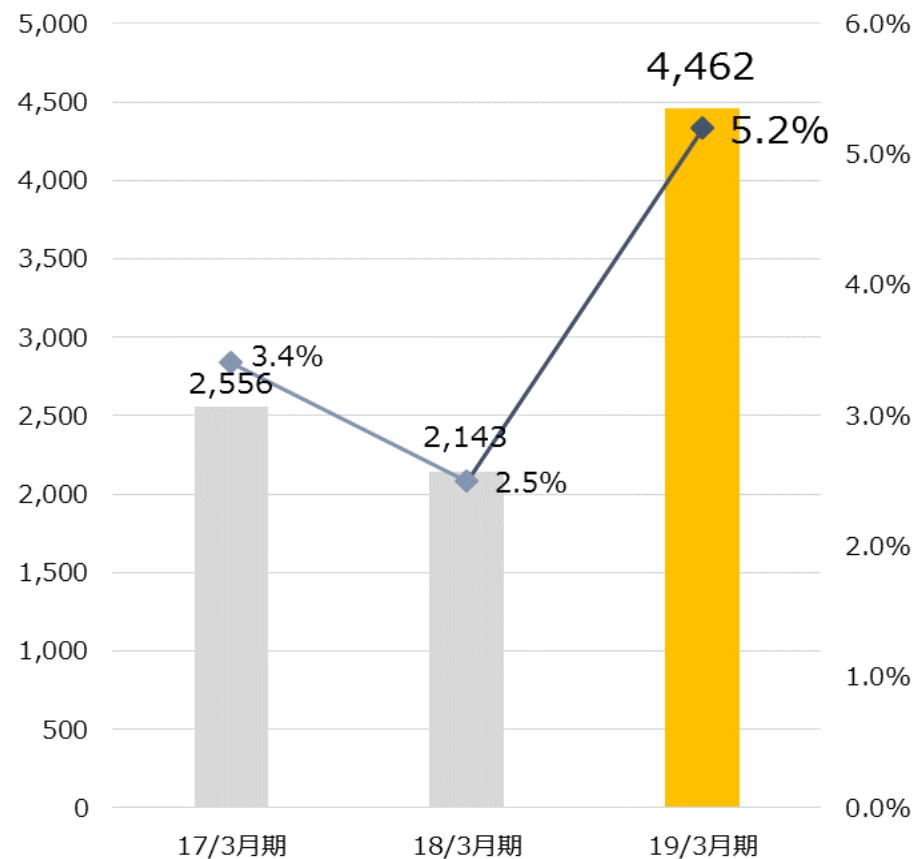
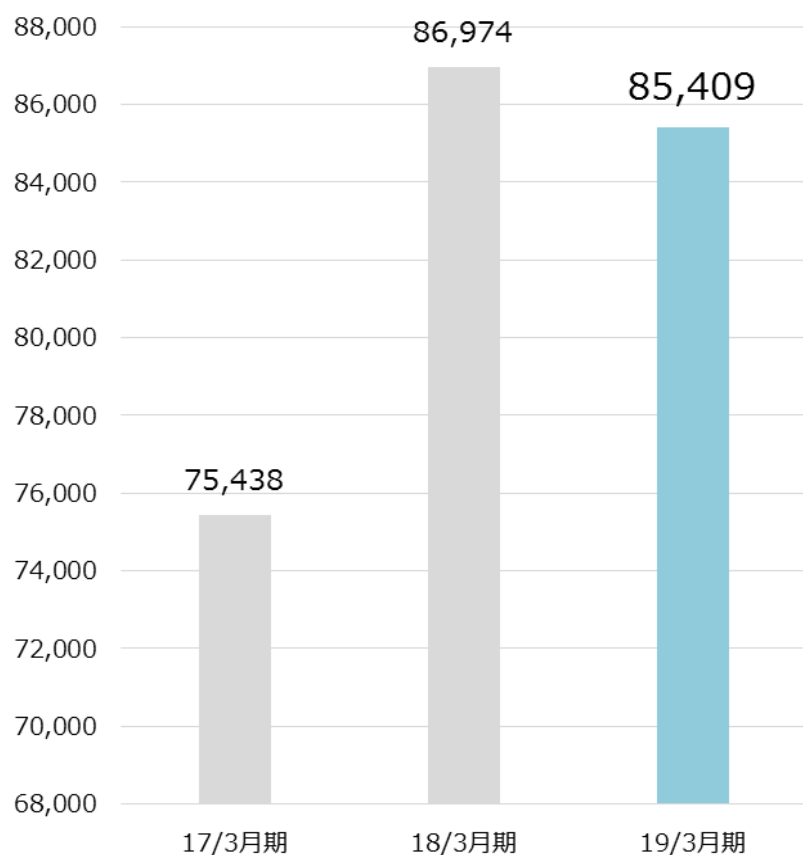
※¹ 当社は2018年3月1日付で当社の連結子会社であった株式会社KATO HICOMを吸収合併いたしました。

※² 2019年3月期の1株当たり期末・年間配当金は、2019年6月27日開催予定の第120回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

(単位：百万円)

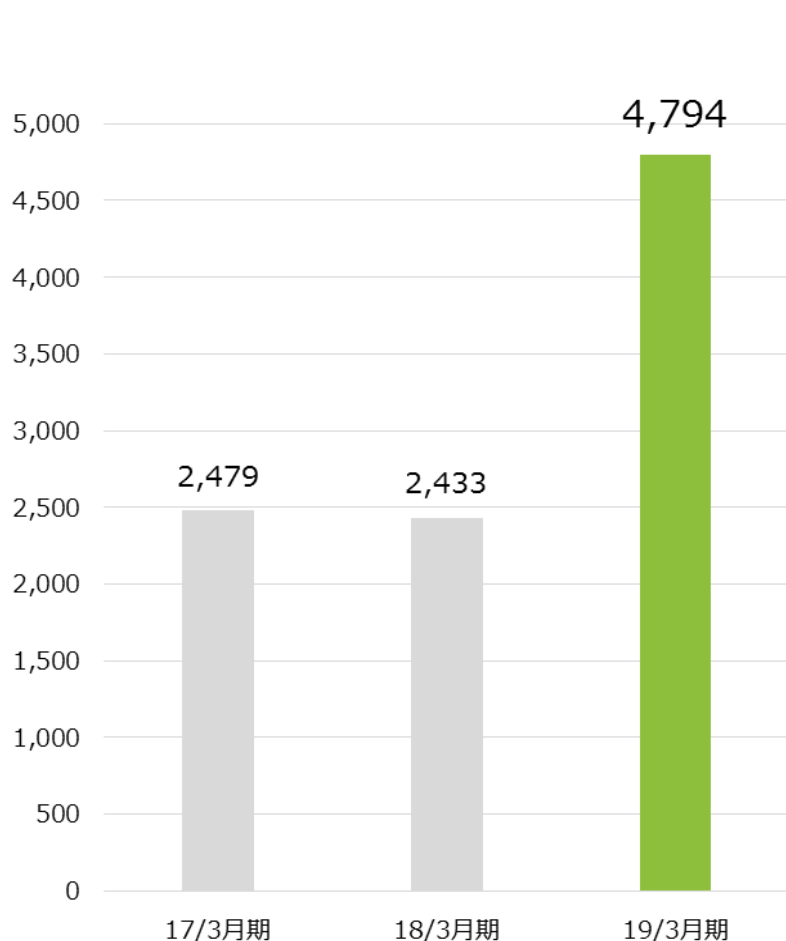
売上高

営業利益・営業利益率

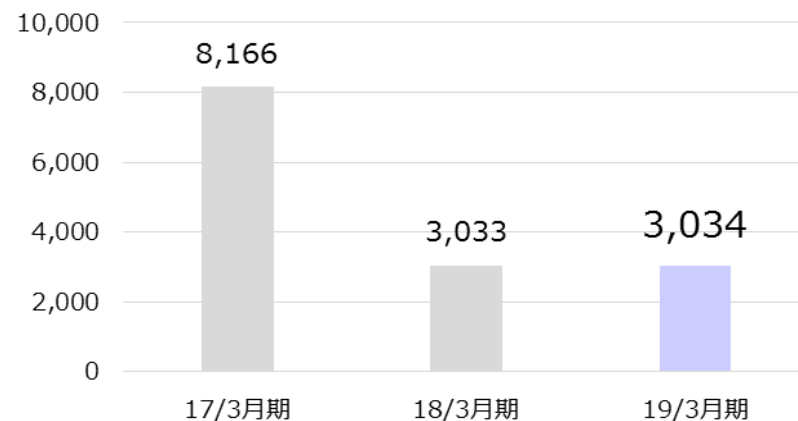


(単位：百万円)

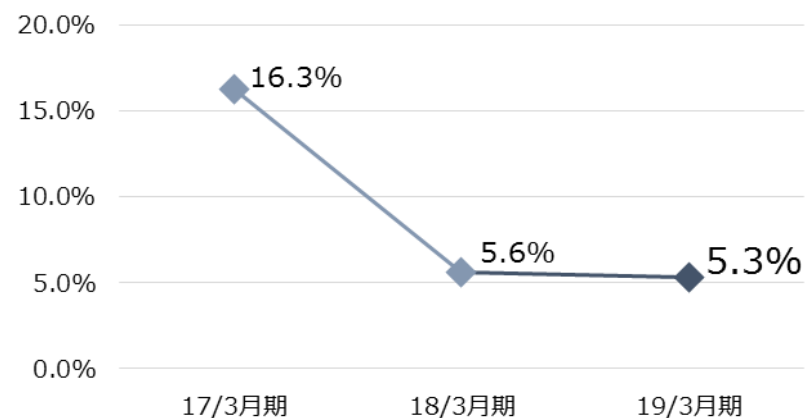
経常利益



親会社株主当期純利益



ROE (自己資本利益率)



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年3月期		2019年3月期		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	86,974	100.0%	85,409	100.0%	△ 1,564	△1.8%
売上原価	74,076	85.2%	72,148	84.5%	△ 1,928	△2.6%
売上総利益	12,897	14.8%	13,261	15.5%	364	2.8%
販管費	10,753	12.4%	8,798	10.3%	△ 1,955	△18.2%
営業利益	2,143	2.5%	4,462	5.2%	2,319	108.2%
営業外損益	290	0.3%	332	0.4%	41	14.4%
経常利益	2,433	2.8%	4,794	5.6%	2,360	97.0%
特別損益	66	0.1%	104	0.1%	37	55.8%
税前利益	2,500	2.9%	4,899	5.7%	2,398	95.9%
法人税等	△ 647	△0.7%	1,759	2.1%	2,406	-
非支配株主当期純利益	114	0.1%	105	0.1%	△ 9	△8.3%
親会社株主当期純利益	3,033	3.5%	3,034	3.6%	0	0.0%
ROE		5.6%		5.3%		△0.3ポイント

➤ 売上高

- 連結売上高は、前年同期比で1.8%減少
- 海外売上高比率は、29.0%から31.9%へ増加

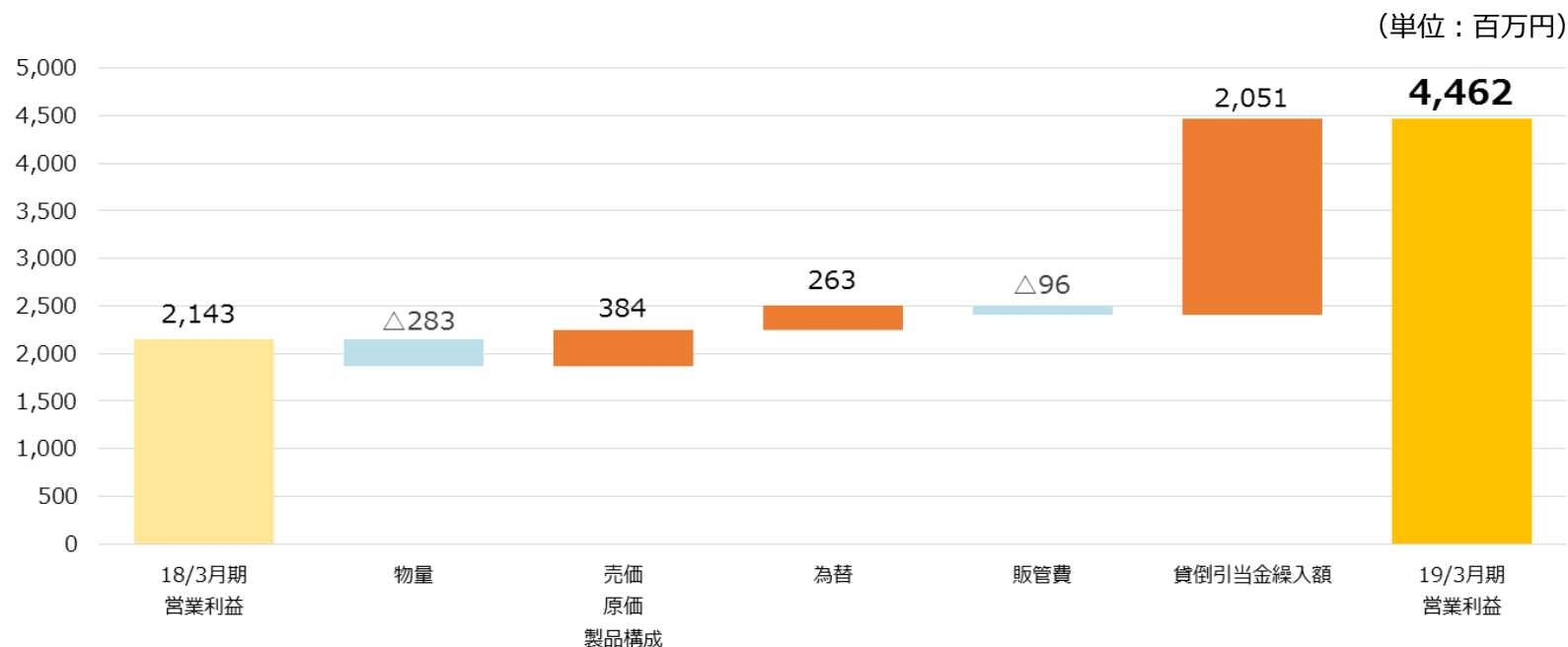
➤ 営業外損益

- 当期の営業外収益は761百万円（前年同期714百万円）
- 営業外費用は429百万円（前年同期423百万円）

➤ 経常利益及び親会社株主当期純利益

- 経常利益は、前年同期比2,360百万円増加
- 親会社株主当期純利益は、前年同期比0百万円増加

営業利益の増減分析



▶ 営業利益増減要因

- ・物量の減少により
- ・売価/原価/製品構成の変動により
- ・為替の変動により
- ・販管費の増加により
- ・貸倒引当金繰入額の減少により

△283百万円

384百万円

263百万円

△96百万円

2,051百万円



2,319百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

		2018年3月期		2019年3月期		前期末比	
		金額	比率	金額	比率	増減額	
資産 の 部	流動 資産	手許資金	18,410	15.3%	14,255	11.4%	△ 4,155
		売上債権	46,874	39.0%	42,917	34.2%	△ 3,956
		たな卸資産	34,441	28.6%	42,556	33.9%	8,114
		その他	△ 2,725	△2.3%	△ 1,733	△1.4%	992
		流動資産計	97,000	80.7%	97,995	78.0%	995
	固定 資産	有形固定資産	15,743	13.1%	21,243	16.9%	5,500
		無形固定資産	599	0.5%	756	0.6%	157
		投資その他の資産	6,910	5.7%	5,560	4.4%	△ 1,350
		固定資産計	23,253	19.3%	27,561	22.0%	4,307
	資産合計		120,253	100.0%	125,557	100.0%	5,303
負債 ・ 純 資産 の 部	負債	仕入債務	23,922	19.9%	25,090	20.0%	1,167
		有利子負債	33,403	27.8%	34,889	27.8%	1,485
		その他	5,917	4.9%	7,080	5.6%	1,163
		負債計	63,244	52.6%	67,060	53.4%	3,815
	純 資産	利益剰余金	43,382	36.1%	45,480	36.2%	2,097
		評価換算差額等	2,630	2.2%	1,980	1.6%	△ 650
		その他	10,995	9.1%	11,036	8.8%	40
		純資産計	57,009	47.4%	58,496	46.6%	1,487
	負債・純資産計		120,253	100.0%	125,557	100.0%	5,303

▶ 売上債権の減少

46,874百万円 → 42,917百万円
→ 売上債権回転期間は13.3日改善
(18/3月期 : 196.7日
19/3月期 : 183.4日)

▶ たな卸資産の増加

34,441百万円 → 42,556百万円
→ たな卸資産回転期間は37.4日悪化
(18/3月期 : 144.5日
19/3月期 : 181.9日)

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正に従い、連結貸借対照表の組替えを行っております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

		2018年3月期	2019年3月期
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	2,500	4,899
	減価償却費	1,580	1,532
	売上債権増減額	9,377	3,403
	たな卸資産増減額	3,108	△ 8,667
	仕入債務増減額	△ 1,743	1,308
	その他	△ 1,334	△ 1,593
	営業キャッシュフロー計	13,488	882
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 2,672	△ 5,670
	その他	△ 271	463
	投資キャッシュフロー計	△ 2,943	△ 5,206
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	△ 8,185	1,519
	その他	△ 1,118	△ 954
	財務キャッシュフロー計	△ 9,304	565
増減額	換算差額	68	△ 41
	増減額計	1,310	△ 3,799
現金及び現金同等物の期首残高		16,744	18,055
現金及び現金同等物の期末残高		18,055	14,255
有利子負債残高		33,403	34,889

- ▶ **たな卸資産の増加**
→ 国内建設用クレーンの販売が想定を下回ったため、たな卸資産が増加
- ▶ **固定資産の取得**
→ 新工場建設及び既存工場の増設

連結主要品目別売上高推移

(単位：百万円)

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	49,524	65.7%	45,418	52.2%	44,241	51.8%	△ 1,177	△2.6%
海外売上高	6,567	8.7%	7,068	8.1%	7,587	8.9%	518	7.3%
計	56,092	74.4%	52,487	60.3%	51,828	60.7%	△ 658	△1.3%
油圧ショベル等								
国内売上高	13,491	17.9%	14,689	16.9%	12,509	14.6%	△ 2,179	△14.8%
海外売上高	4,442	5.9%	18,132	20.8%	19,630	23.0%	1,497	8.3%
計	17,933	23.8%	32,821	37.7%	32,139	37.6%	△ 681	△2.1%
その他								
国内売上高	1,393	1.8%	1,642	1.9%	1,400	1.6%	△ 242	△14.8%
海外売上高	18	0.0%	23	0.1%	41	0.1%	18	79.1%
計	1,411	1.8%	1,665	2.0%	1,441	1.7%	△ 224	△13.5%
合計								
国内売上高合計	64,409	85.4%	61,749	71.0%	58,151	68.0%	△ 3,598	△5.8%
海外売上高合計	11,028	14.6%	25,224	29.0%	27,258	32.0%	2,034	8.1%
計	75,438	100.0%	86,974	100.0%	85,409	100.0%	△ 1,564	△1.8%

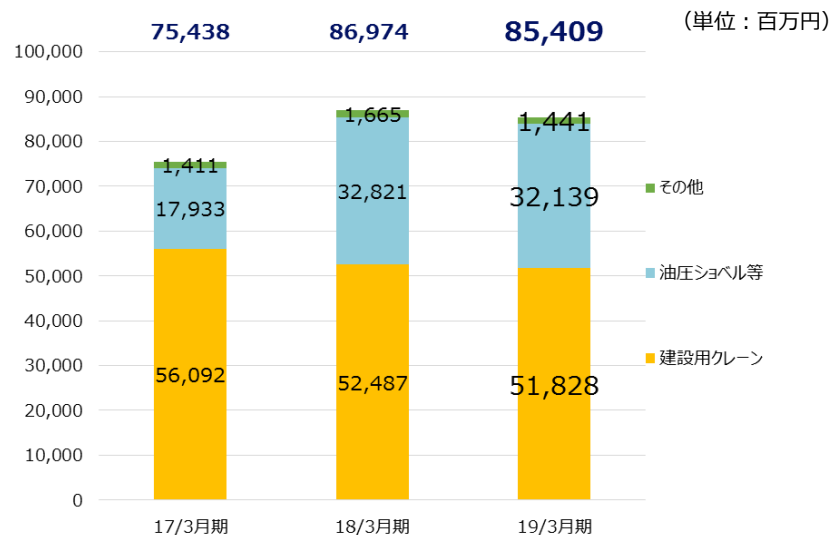
国内売上高の減少

- 建設用クレーン：総需要が減少局面を迎えたことにより、売上高が減少
- 油圧ショベル等：排出ガス規制実施前の駆け込み需要の反動減によりショベルの売上高が大幅減少

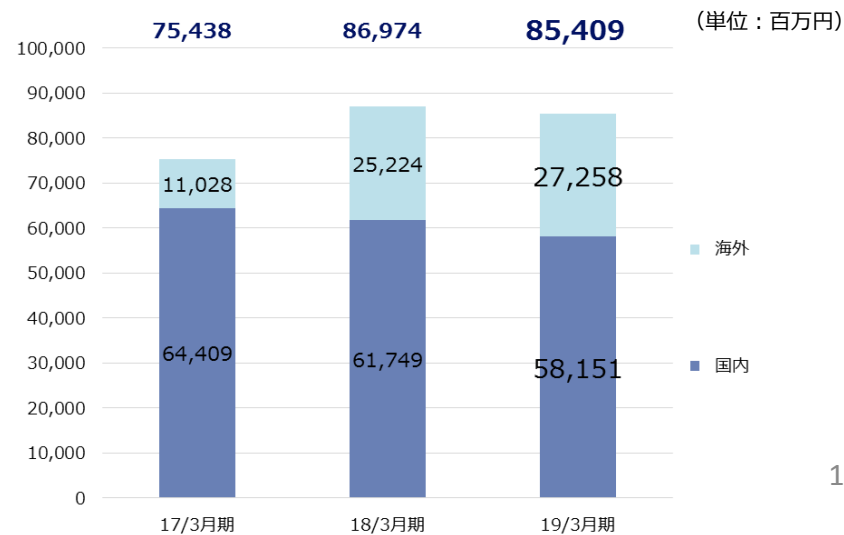
海外売上高の増加

- 建設用クレーン：東南アジアを中心とした、建設需要及びインフラ投資により売上高が増加
- 油圧ショベル等：中国国内向け油圧ショベル及び米国向けクローラキャリアの需要が増加したことにより売上高が増加

主要品目別売上高推移



国内外売上高推移



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け（4.9t～80t 6機種）
- 国外向け（13t～70t 7機種）



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け（130t～400t 4機種）
- 国外向け（130t 1機種）



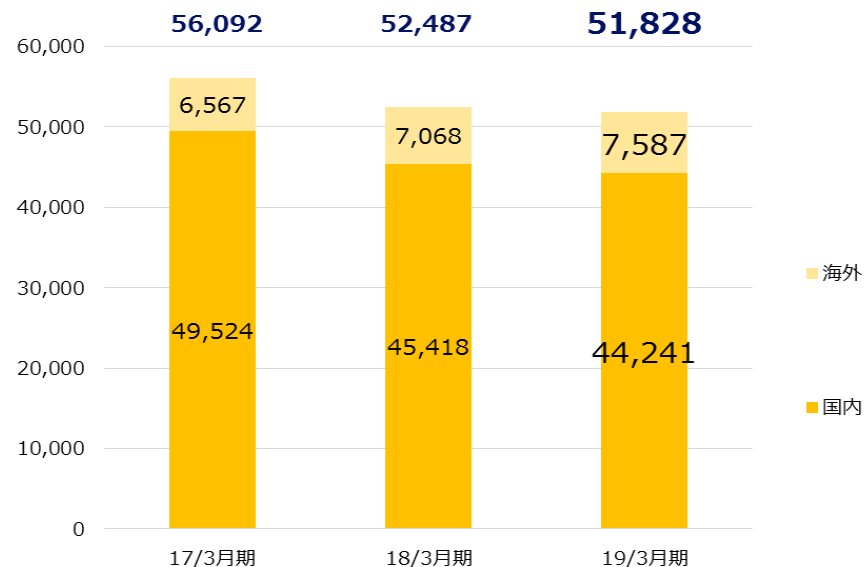
クローラクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- ラチスブームの組み合わせにより多様な現場に対応可能
- 国内向け（50t～200t 6機種）
- 国外向け（55t～300t 7機種）



（単位：百万円）

売上高推移



▶ 国内

→ オペレータ不足や排出ガス規制実施前の駆け込み需要の反動減により小型機種及びクローラクレーンが減少し、売上高は1,177百万円の減少

▶ 海外

→ 欧米及び中近東向けの需要が減少するも、インフラ・民間投資需要が堅調な東南アジア向けが増加したことにより、売上高は518百万円の増加

【主要製品紹介】

油圧ショベル

- ・ クローラ式走行部を有する掘削機械
- ・ 不特定の場所を自走できる
- ・ 頑丈で操作性が良い
- ・ 国内向け（8t～30t 6機種）
- ・ 国外向け（8t～38t 12機種）



ミニショベル

- ・ 小型の油圧ショベル
- ・ 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け（0.9t～8t 15機種）
- ・ 国外向け（0.9t～8.5t 12機種）



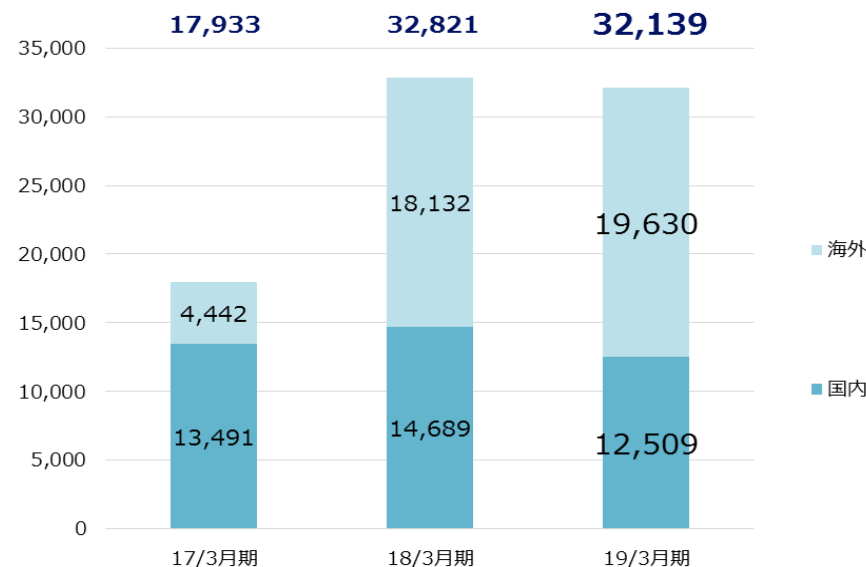
クローラキャリア

- ・ 不特定の場所を自走できる運搬機械
- ・ 作業効率が良く多彩な現場で活用可能
- ・ 国内向け（3.7t～11t 6機種）
- ・ 国外向け（3.7t～11t 4機種）



（単位：百万円）

売上高推移



▶ 国内

→ レンタル業者の需要が戻ってきたものの、排出ガス規制実施前の駆け込み需要の反動減により国内の需要が大幅に減少し、売上高は2,179百万円の減少

▶ 海外

→ 中国はインフラ投資の鈍化が見られるものの、春節明けの需要は前年より増加し、また米国向けのクローラキャリアの需要が堅調に推移したことで、売上高は1,497百万円の増加

【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（2機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（9機種）
- 国外向け（個別対応）



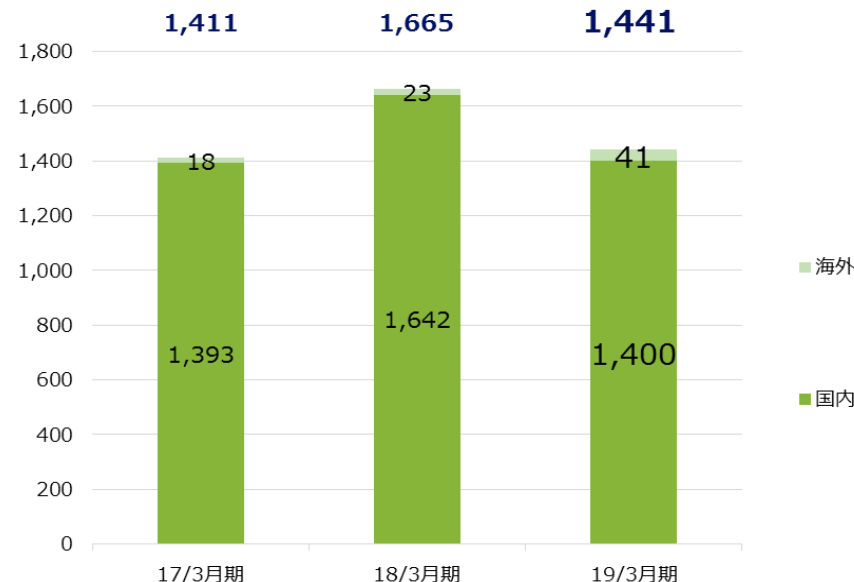
スノースイーパー

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



（単位：百万円）

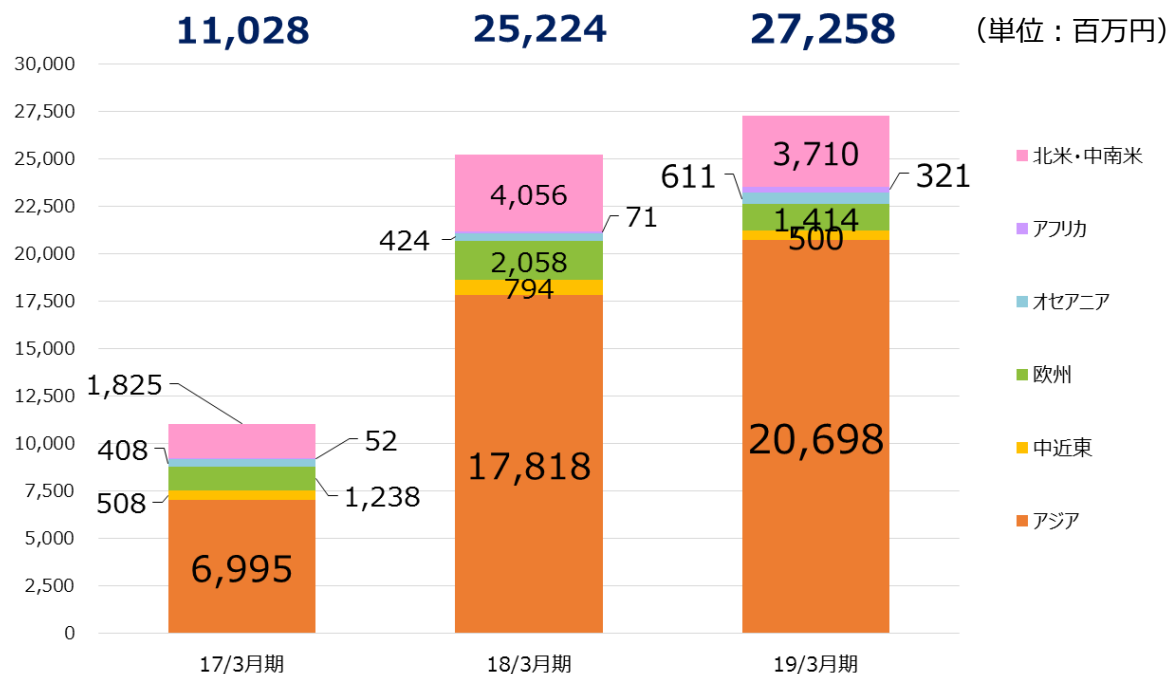
売上高推移



➤ 売上高の減少

→ 国内の路面清掃車や万能吸引車の販売が伸び悩み、売上高は224百万円の減少

連結仕向地別売上高推移（日本除く）



▶ アジア向け販売の増加

→ 中国向けショベル及びインドネシア・タイ向けクレーンが増加

▶ 北米・中南米向け販売の減少

→ OEM供給のクローラクレーン販売が減少し、クローラキャリアは旺盛な需要に供給が追いつかず、売上高は減少

(単位：百万円)

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	6,995	63.4%	17,818	70.6%	20,698	75.9%	2,880	16.2%	24.2%
中近東	508	4.6%	794	3.2%	500	1.8%	△ 294	△ 37.0%	0.6%
欧州	1,238	11.2%	2,058	8.2%	1,414	5.2%	△ 643	△ 31.3%	1.7%
オセアニア	408	3.7%	424	1.7%	611	2.2%	186	44.0%	0.7%
アフリカ	52	0.5%	71	0.3%	321	1.2%	250	348.9%	0.4%
北米・中南米	1,825	16.6%	4,056	16.1%	3,710	13.6%	△ 345	△ 8.5%	4.3%
海外売上高合計	11,028	100.0%	25,224	100.0%	27,258	100.0%	2,034	8.1%	31.9%

2020年3月期連結業績予想

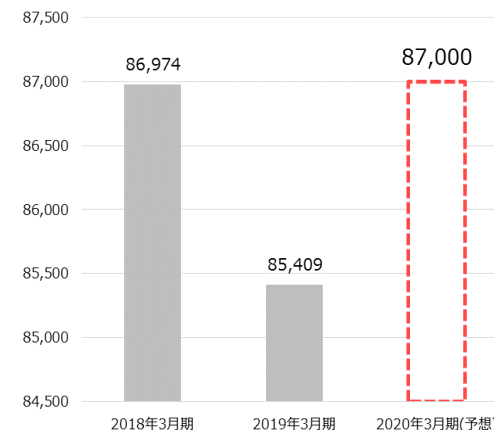
見通しポイント

- 売上高は、国内及び海外ともに対前年比増収を見込む
- 新工場稼動開始による固定費増加により減益を見込む

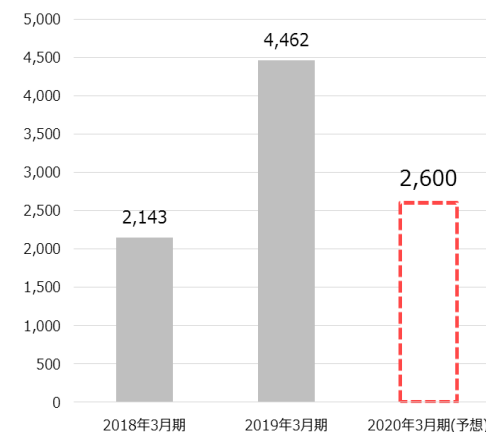
	2019年3月期		2020年3月期(予想)	
	金額	比率	金額	増減率
売上高	85,409	100.0%	87,000	1.9%
国内売上高	58,151	68.1%	59,130	1.7%
海外売上高	27,258	31.9%	27,870	2.2%
営業利益	4,462	5.2%	2,600	-41.7%
経常利益	4,794	5.6%	2,700	-43.7%
親会社株主当期純利益	3,034	3.6%	1,500	-50.6%
1株当たり 配当金	中間	47.50円	47.50円	
	期末	※ 47.50円	47.50円	
	年間	※ 95.00円	95.00円	
設備投資額		5,670	5,100	

(単位：百万円)

売上高



営業利益



※2019年3月期の1株当たりの期末・年間配当金は、2019年6月27日開催予定の第120回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

➤ 2018森林・林業・環境機械展示実演会に出展

2018年11月18日、19日の両日東京都あきる野市において、「2018森林・林業・環境機械展示実演会」が開催され、当社は昨年に引き続き出展いたしました。2日間で2万8千人と過去最多の来場者があり、当社は林道作り（草刈剪定作業）から造材の運搬に至る一連の林業作業を可能にする多彩な機械をご紹介します、好評を博しました。

✓ 2018年森林・林業・環境機械展示実演会 概要

- ・日時：2018年11月18日、19日
- ・会場：東京都あきる野市下代継221番地
旧秋川高等学校跡地
- ・主催：東京都 一般社団法人林業機械化協会



➤ bauma2019（国際建設機械見本市）に出展

2019年4月8日～14日の7日間、ドイツ・ミュンヘンにおいて、「bauma2019」が開催され、当社も出展いたしました。

63ヶ国から約3,700社の出展、来場者数は200ヶ国以上から62万人以上ののぼり、当社は建設用クレーンや油圧ショベル等をご紹介し、好評を博しました。

✓ bauma2019 概要

- ・日時：2019年4月8日～14日
- ・会場：ドイツ・ミュンヘン見本市会場
- ・主催：Messe Munchen GmbH
- ・当社展示機種：建設用クレーン4機種、油圧ショベル12機種、クローラキャリア4機種、その他5機種



▶東京エクセレンス B2昇格

当社がサポートするB3リーグのプロバスケットボールチーム「東京エクセレンス」がB.LEAGUE 2018-19 SEASONにおいて総合1位となり、B2昇格が決定いたしました。

今後もチームの成長を図るとともに、社会貢献活動の一環として、スポーツによる地域貢献、健全な青少年育成を目指します。



本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
総務人事部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail: ir-kato@kato-works.co.jp